

「Ⅷ」12月1日（木）三会寺・熊野山最勝寺、富士塚・庚申塔巡り

（集合；JR横浜線「小机駅」改札口9；50分厳守同時出発）

（1）行程；「小机駅」→地藏堂→三会寺→鳥山八幡宮→馬頭観音堂・駒形明神→將軍地藏→双体道祖神→最勝寺・富士塚→バス停「菅田町入口」→市営地下鉄線「片倉町駅」。

（2）食事場所；「」。TEL；045——。

以下1・2・3は興味ある場所にて参考資料今回は探訪しない予定

1・庚申塔・地神塔（12小机1423）

庚申塔（塔高77cm）・地神塔（塔高95cm・文政2己卯^ノト^リ1819）・寒の神石、男石（笠6個、女石（相輪玉石10個）。

2・本法寺（日蓮宗・長秀山・寺宝、宗祖日蓮上人像、鎌倉期日法作長八寸坐像、日蓮消息1通）

天文8年（1539）網島太郎の発願により池上本門寺第9世東眼院日純聖人を開山と仰ぎ創立。天正初期（1575）鶴見川畔に移転、長秀山本法寺と改称。その後、本堂流出など災難に遭い、文政2年（1819）現在地へ移転。楼門2階、辻鐘堂、大晦日除夜の鐘・手水鉢（^{コウス}ハチ・龍が尾をからませ、縁に半身をもたげ頭を鉢中に突き出し、口中より水を出している、1石彫りの大作・明治15壬寅^ミノ^ト年・市分）・法界等・万霊供養塔・宝塔・宝篋印塔・俳画塚碑等。

3・庚申塔（小机町1302・祠内・此の台地上道は鎌倉時代旧道・）前の畑中の高まり小机城兵の埋葬塚）

庚申塔地藏像（塔高70cm・正徳6丙申^{ヒノ}天1716）・庚申塔（塔高1m3cm左右に童子像浮彫・享保12年丁未^{ヒノ}年1727）。

4・地藏堂（鳥山町1270・橋際土手伝い約100m下る、松木元・俗称乞食^{コジキ}地藏大飢饉^キの祈り）

地藏合掌形坐像（塔高75cm・天保13年寅年（1842）

5・三会寺「サネヅ」・高野山真言宗金剛寺末、元は中本寺、末寺36数えた・瑞雲山・本尊、絶対秘

仏弥勒菩薩旧小机領歳観音札所第12番目十一面観音、14世紀前半頃作・東国88ヶ所霊場第25番延命地藏坐像（元和4年1618、鎌倉仏師忠三郎修理）、江戸後期は本尊だった不動明王立像（西暦1500年）」

承安年間（1171～75）他説建久3年（1192）源頼朝が鳥山八幡宮の西に館のあった佐々木高綱に奉行を命じて建てたと伝う。高綱は、宇治川合戦の先陣の功で名高い。延文元年（1356）8月等海法印が現在地に移転（旧所は馬場＝元屋敷と呼ぶ）して中興開山。多くの檀林を起立、弘法大師の再来と讃えられた。弥勒堂は由緒ある建物のため、慶長5年（1600）に、徳川家康が再建、寺号も弥勒の竜華三会に由来する。

寛永9年（1632）鎌倉仏師忠三郎作印融法印坐像、行基作の愛染明王、タイからの渡来仏、等多くの像を祭る。本堂弥勒堂頼朝建立と伝う・灯笼（寛政癸丑ヒノイツ）・結界石（戒壇石・寛政9年丁巳ヒノミ歳＝1797）・角柱碑（文政5壬午ミヅノエマ年＝1822）。

6・庚申塔・地神塔（鳥山町292・八幡宮入口十字路左側に5基の石仏、右側に地神塔）

地神塔（明治3庚午）・庚申塔（元文2丁己）・庚申塔（延宝2天丑）・庚申塔（刻字判読不能）・庚申塔（延享4卯天）・馬頭観世音塔（合掌八臂坐像刻銘生月御地内立之天保6羊閏）生月御地内とは佐々木高綱の名馬生月（ショウゲツ）。

7・鳥山八幡満宮（鳥山町281・祭神、菅田別尊・境内社、弁天社・祭礼、9月15日神事、芸能、獅子舞巡幸・明治6年1873村社・大正15年神饌幣帛料供進社）

創立年代不詳、鎌倉幕府の頃から笹頭高綱の所領で、鎮守として祀ったと伝う。鳥居（昭和5戊子ツノイ天）・階段登ると手水鉢（チウズバチ・文化2乙丑キノツ1805・元陰刻）。

8・馬頭観音堂（鳥山町462・駒形明神、安山岩、馬形、足部分欠損・供養法要三会寺・馬頭観音文字塔）

源平時代、佐々木高綱が八幡宮の西側に館をかまえていた。石橋山合戦の折頼朝軍に参加し、功に依り名馬池月（生数寄・イヌギ）を贈られた。寿永3年（1184）宇治川の先陣争いで功名をあげた池月も老いて此の地で死んだ。その亡骸を葬り、馬霊を神として祀ったのがこの祠である。法要、供養向根谷戸45軒程と三会寺が中心となり貧乏地藏と同時に行われる。

○貴雲寺（曹洞宗雲松院末・本尊薬師瑠璃光如来坐像長9寸・武南12薬師霊場第1番札所・本堂向左石柱石仏）

開山は、慶長3年（1598）玄室宗頓大和尚と言う。歴代和尚の内、9世泰山和尚は安永8年（1779）薬師瑠璃光如来を本尊とする各寺院に呼びかけ、武南12薬師霊場を創設。3年後の天明2年（1782）寅年に当たる事から開帳を始め、以後、12年ごとに寅年に本尊開帳が続けられており、この時の発願連印状が残る。

9・將軍地藏（鳥山町219・小さな祠2つ・毎年4月24日開扉、御開帳法要）

向かって左側神殿造風の祠が將軍地藏尊。此の像は佐々木高綱の守り本尊と言う、鳥山に高綱始め代々崇拝してきた。第二次大戦が激しくなり、堂宇が疎開したり転居したりした為、像も移転余儀無くされた。その後、地元の信者達が地元に戻そうと言う要望が高まり、現在地にお堂を建立安置した。昭和32年5月24日盛大な供養を行った。

10・庚申地藏・庚申塔（鳥山町220・供養法要5月、9月・供養、法要は三会寺読経後懇親会）

燈籠（総高1m15cm・安永5丙申ヒトツル天1776）・庚申地藏（塔高97cm・元禄乙亥キトイ祀）・庚申塔（塔高94cm・享保19寅庚申カヱル1734）・馬頭観世音塔2基。

11・双体道祖神（菅田町2846・寒の神・縁結びの神・安永8己亥ツトイ）

12・熊野山最勝寺（菅田町2713・裏山に富士塚・真言宗高野山派・熊野山・本尊、薬師如来坐像・寺宝、聖観音菩薩像、地藏立像、12神将像・素晴らしい富士塚、他に北山田=富士山そっくり、川和富士が優れている）

日本回国供養塔（安永4己未ツトヒツジ6年）・庚申地藏塔（元禄12乙キト天）。

○富士塚（1合目～十合目に分けて富士講碑造立裏面に刻銘・是だけの石塔、石仏が残る富士塚は見当らない）

入り口仙元大菩薩大願成就（慶応元己辛年）・1之嶽天照皇大神（同左）・2之嶽熊野三社大権現（同左）・3之嶽伊豆大権現（同左）・4之嶽白山妙義大権現（同左）、登山記念（大正元年）、不動明王坐像（同左）、富士浅間大菩薩（文化5年）・5之嶽日吉山大権現（同左）・6之嶽鹿島大神宮（同左）、小御獄石尊大権現等（元治元年）・7之嶽三嶋大明神（同左）・8之嶽箱根大権現（同左）・9之嶽諏訪

上下大明神（同左）・頂上に大日如来坐像（同左）・境内に地藏坐像，大日如来像，庚申塔等がある・イトヒバ樹齢200余年（県名木古木指定）。

○廻国供養塔・廻国信仰

六部（六十六部廻国行する人・白衣，背中に仏像の入った厨子や笈櫃アツツを背負い合力を求め歩く）弥勒菩薩；釈迦如来滅後56億7千万年後兜率天（トツテン）からこの世に下生して衆生を救済するという弥勒六部經による信仰で弥勒菩薩の世となるまで，悪魔下道の手から經典を守り後世に伝えようと經典を金属や須恵器等の容器に収め，山の尾根や国々の霊場に奉納した。この經典を埋蔵したものが経塚で有る。このように元来經典を後世に伝える目的を持った納経も，後に特定の目的を果たすための供養へと変化していった。

信仰者は大乘妙典と呼ばれる法華經を66部作り66ヶ所の霊場に保存する目的で一部ずつ各霊場に納経するために国々によって建てられた石塔が「廻国供養塔」である。

「Ⅸ」2月2日（木）川和富士塚を訪ねる

（集合；市営地下鉄線グリーンライン「都筑ふれあいの丘駅」改札口9；50分厳守同時出発）

（1）行程；「都筑ふれあいの丘駅」→（かりん公園省略）→川和富士公園→八幡神社→川和の宿町→瑞雲寺→川和町駅→妙蓮寺・熊井太郎忠基の碑→貝の坂旧街道→慈恩寺→川崎町田線・石橋交差点→（杉山神社・無量寺・地藏尊省略）→中原街道・佐江戸交差点→横浜上麻生線・藪根交差点→ららぽーと横浜→JR横浜線「鴨居駅」。

（2）食事場所；「」。TEL；045――。

1・かりん公園（鴨池公園，牛ヶ谷公園～緑道でつながり樹木，緑陰多い・遊具・水場緑道で富士塚公園へ）

2・川和富士公園（万延元年，1860から27年を掛けて明治20年完成した富士塚。港北ニュータウン事業で現在地に再築された，標高74m360度眺望）

富士信仰について

日本の山岳宗教には伝統的は山神崇拝と外来文化の仏教が習合して，自ら厳しい行をつむ修験道と言

う独特の信仰形態が生まれた。中世には大宮口、吉田口、須走口、村山口を各々の登山道として、浅間神社が管理する事となった。祭神には「木花咲耶姫命」が祀られ、この神に仏教が習合した浅間大菩薩を併せ崇め修験道が定着した。修験道は、近世初頭に一般民衆に受け入れられ、新たに富士講が成立した。

富士講は、天文年間（1532～54）に長崎で生まれ富士の人穴で修業し、人穴を根拠地として各地を遍歴した長谷川角行（かたぎ 角）東覚（書行藤覚）によって基礎がつくられ、享保期六代目の食行身禄（ミ 叻・伊藤伊兵衛）村上光清等の活躍により、江戸下町層町人に普及した。富士講先達と講元からなり、先達は信仰面を司り、毎回登山指揮誘導を行った。日常は、山開き（旧暦6月1日）や正五九（正月、5月、9月）又、毎月行われる拝みの先導をしたり、依頼により病氣平癒等加持祈祷（がじ けり）をした。

富士塚は。富士山に登山出来ない者の登拝の為に、富士山を模して築いた人造の小山で、頂上に小祠か大日如来坐像を祀り、中腹に御獄石尊大権現、各合目にそれぞれの山の神を祀っている。最初の富士塚は、身禄の弟子日行青山（高田藤四郎）十数年を費やして造った江戸高田富士（安永3年1774・新宿区戸塚町）と言う。それ以降各地に次々と築造されたが港北近辺は幕末のものが多。先達は登山三十三回、五十回、六十回、八十八回、百回を記念して碑を建てる風習があり、江戸時代は年一回が普通で三十三回となれば大先達とあがめられた。百回以上の記念碑は明治以降と見て差し支えない。

3・天宗寺（浄土宗鎮西派小机泉谷寺末・岩沢山光樹院・本尊三尊阿弥陀如来像）

天文8年1539）村民の伊左衛門創建。泉谷寺5世見蓮社東誓を招請開山と伝う。境内に芭蕉句「うき我をさびしがらせよかんこ鳥」・六地藏と並びたつ。

4・八幡神社（祭神八幡大神・例祭10月1日）

貞観17年、865武蔵国正六位河輪神に従5位を授けられたと言う、川和町氏神。100本の桜。浅間大神，川和富士塚移転時合祀。

5・川和の宿町（日野往還は中原街道と大山街道の接続道に面し約350m川和宿が・現在も沿道にわたや，こうや，とうふや，かじや，いとや，かさや，いしや，なべや，さかなや等屋号残る）

6・瑞雲寺（臨済宗円覚寺派・醫王山・本尊華嚴の釈迦坐像・寺宝鷹薬師如来徳川家康祈願・筆塚・）

貞治2年（1363）僧梅林靈竹の開基，多数宝物大正6年出火で全焼。

7・川和公会堂

8・天王社

9・妙蓮寺（日蓮宗・城根山・本尊釈迦を本仏と立て10界の曼陀羅・普賢堂・日朝堂・七面堂）・熊井太郎忠基の碑（妙蓮寺墓地最上段「城根山妙蓮寺発祥の地」館跡と言う。義経に従い活躍奥州落に従ったと言う）

康永3年（1344）日蓮上人孫弟子、越中阿闍梨朗慶開山650の名刹・現本堂文政5年、1793再建・古木多い桜銀杏。

10・貝の坂旧街道（日野往還に川和行政府置かれ明治29年貝の坂改修までは能見堂から中山恒三郎邸前が出る約200mの山越え道であった。佐江戸川に茶屋も有ったと言う・字名、井戸跡ある）

11・慈恩寺（浄土真宗）

12・杉山神社（祭神五十猛命・例祭9月27日）

勧請年代不詳。武蔵風土記に建立は甚だ古いと記され、慶長18年（1613）再興の棟札は東漸寺所蔵、明治6年村社、同16年1月28日社殿改築竣工、大正9年12月22日神饌幣帛料供進社（シンセンヘイハクリョウガ シンジャ）指定。

13・無量寺（高野山真言宗・帰命山・本尊阿弥陀如来）

文明2年（1470）泉洲七宝龍寺の印慶によって開基。永禄元年（1558）印融の高足真繼が住し寺運隆昌。延宝2年（1674）4代將軍家綱が野遊の折り寺領4石後、6石の朱印賜る。宝暦11年（1761）焼失後再建。

14・地藏尊（中原街道交差点地藏尊、地神塔・平成19年8月吉日中原街道拡幅により移設社講中）

15・東漸寺（高野山真言宗烏山三会寺末・仏法山般若院・本尊不動明王・寺宝文殊堂本尊文殊菩薩天治年間1124～26行基作）

行基が草庵を造営し一時在住したが後荒廃、永享12年（1440）阿遮利（アジャリ）智運僧都によって開山。

16・中原街道（佐江戸交差点）

17・ららぽーと横浜

第64回行程案内図

